

はじめに

私の職業は、音楽家です。人から仕事をたずねられて「ミュージシャンです」と言うと、「カッコいいですね」とか「ステキですね」と反応をいただくことが多く、気恥ずかしくも嬉しくなります。

「楽器が弾けるのはいいですね」、「羨ましいです」ともよく言われます。私にとってピアノを弾くことはごく当たり前で自然なことなのですが、音楽にあまり縁のない人や、音楽はもっぱら聞くだけという人からすると、楽器を弾けるということは確かにすごいことなのかもしれません。

音楽を嫌いだという人は、世の中にほとんどいないでしょうし、多くの人に喜んでいただけることに私が深く関わっているということは、それ自体がとても幸せなことだと思えます。音楽は楽しいばかりではなく、人に勇気や希望、癒しを与える効果があります。

また、複数で一緒に歌うことや、合奏をすることにより調和と平和を生み出すこともできます。そのように音楽には様々な側面があります。いつも音楽に存分に接している私は、自然に音楽からいいエネルギーを得ているのかもしれない。

子どもの頃から大好きだった音楽を仕事にできていることは、本当に恵まれていることだと素直に今は思います。

しかし、過去には私の生き方はこれでいいのだろうか、と思い悩むことが幾度もありました。

そのような状況を乗り越え、大好きな音楽と共に毎日を生きていけることは、神様からのプレゼントとしてありがたく受け取ることにしました。

日々、ワクワクして楽しいことの連続です。好きなことをして毎日を過ごして生活の糧を得ているわけですから、仕事のストレスはほとんどありません。

私の場合、特定の事務所や音楽教室に所属しているのではない、いわゆるフリーランスで、しかも教えるより演奏が主体の働き方ですので、仕事量は一定していません。つまり、ものすごく不安定な生活で、その日暮らしと言っても過言ではありません。

私は自分自身のことを、ポジティブな意味で「究極のフリーター」と呼んでいます。生活の安定を重視する人にとっては、ありえない生き方かもしれません。

しかし、ストレスフリーで、好きなことに囲まれてキラキラ暮らす生き方を私はとても気に入っていますし、この生き方は私の性分に合っているようです。

さて、作家でもないし、ミュージシャンと言っても特に有名だとはいえない私がなぜこの本を書くことになったのか、不思議に思っていたらっしゃるかもしれません。私にとっても驚くべきことなのです。そのことをお話しする前に、この本を手にとつて読み始めてくださっていることに、心から感謝を申し上げます。

2017年が始まって間もない寒い頃、たくさんメールに混じつて一通の執筆依頼がきました。知らない会社からのメールだし、音楽関係でもないのです、まず開けないメールとして振り分けました。

私はフリーランスのミュージシャンという職業柄、知らない会社からや面識のない人からも音楽関係の依頼がくることもあるので、再びメールをチェックします。そして、そのメールを今度は開いて、ジャンクメールだろうという予測をしつつ読み始めました。

メールというのは相手が見えなくても、意外に書き手の人柄が感じ取れるもので、少し読んだ時点でその丁寧な文章から真面目なメールであることがわかりました。しかし、内容が執筆依頼なので、断りのメールを書こうと思いました。

断りの文章を書くのはなかなか難しいものです。特に先方が丁寧だと、こちらも丁寧に返信しようとするので、何度か書きかけては上手く書けずになりました。

その結果、何度もそのメールを読み返すことになりましたが、次第に私の気持ちが変わってきました。

最初は私に本を書くことなんて無理だと思っていましたし、なぜ私なのだろうという驚きもありました。

私の心が変わった理由は、メールを繰り返して読んだことで、依頼者が私のウェブサイトなどの情報を詳細にチェックした上で私を選んで依頼してきたと感じられたことです。

しかし、突然のことですし、もし、私が自分の音楽ヒストリーを本にしたいと、ずっと思っていたならラッキーな話ですが、そういうわけではありませんでした。

それに、ひよつとしたら初期投資が必要かもしれないので、そんな余裕がない私にはやっぱり無理だ。そのような考えがいろいろ頭をめぐりました。

考えているうちに、そういえば自分の音楽ヒストリーのような文章をまとめたと思ったことがあったことを思い出しました。すっかり忘れていたほどのことですから、真剣に書きたいというような意欲的な気持ちではありませんでした。

考えがきちんとまとまらないままに時間が経っていくので、とりあえず返信することにしました。決定的な返事は書かず、どうか書けず、その時の私の気持ちをありのままに伝えました。

すぐに担当者から返信があり、驚かれたのは当然のことでしょうし、よかったです次の段階に進みませんかと言ってられました。

次の段階とは、そのメールをしてきた方ではなく、別の担当者と会って具体的な説明を聞くということでした。

その担当者の話を聞いて、無理だと思うならそこで断ってよいということなので、とりあえず次の段階に進んでみることにしました。

担当者の印象で判断しようと思いました。相性が合いそうに感じたらGO、そうでない場合はきっぱりと断ると決めていました。

私はてっきり私が先方の会社に向くのかと思いましたが、私の都合のいい場所に来てくれるということで、芦屋にあるお気に入りのカフェを指定しました。

そして、今こうして私が書いた本が出来上がっているわけですから、人生はとても不思議だと思えます。正式に書くことを決めたのが2017年3月のことでした。1年後の出版を目指して、私の初めての作家生活がスタートしました。

実は依頼があったのが2017年だったということも、私にとってバッチリのタイミングでした。1年早くても1年遅くても状況的に依頼を受けることができませんでした。そのあたりのことは、終章を読んでいただければわかります。

この本に、私の人生そのものと言える音楽と共に歩んできた道をつづります。最後まで楽しんで読んでいただけたら幸いです。

そして、この本が皆様おひとりおひとりの音楽との関わり方のヒントになることができれば嬉しく思います。

音楽をすでお仕事にされている方、また、これからお仕事をしたいと考えている方への励ましになることを願いながら書き進めました。

私の音楽ライフが、好きなことをして暮らす生き方の一例として何らかの参考になればさらに嬉しく思います。